



第11号



2016年1月15日発行

奉優デイサービス
生活基盤（一般）型通所介護

Style for 優
生活支援（リハ）型 通所介護

優っくりデイサービス
認知症対応型通所介護

Club for 優
自発的健康クラブ（介護保険外）

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

平成27年は4月の介護保険制度改革により、通所介護は大きな変革を求められる年となりました。

さらに、平成28年は各自治体による新しい総合事業が多くの自治体で開始される年となり、平成30年に向けての介護予防通所介護や社会福祉法人の行う通所介護としての役割を考え、必要な活動を具現化していく事が求められる年になると考えています。

奉優会の通所介護は、今中期計画において4優（4種類の）デイサービスとしてサービスを提供していますが、それぞれのカテゴリーにおいて行ってきたサービスを継続・飛躍させ在宅介護を支援する通所介護として地域包括ケアを推進していきます。

具体的には、奉優デイにおける中重度対応の促進や在宅生活を基盤とした支援サービスの実施。Style for 優におけるPT・OT 自宅訪問による機能訓練加算の算定。Club for 優における新しい総合事業及びコミュニティカフェの実施。認知症対応型の優っくりデイサービスにおける医療重度対応としての、喀痰吸引事業所の指定や「月刊デイ2月号」にて取り上げていただいた生活支援活動の促進。等の活動を今年も継続・飛躍させて取り組んでいきます。

また、職員の処遇改善についても様々な取り組みを行う事ができました。優とぴあ第9号にて取り上げたキャリア段位制度については、11/18に厚生労働省で行われた「第2回介護プロフェッショナルキャリア段位制度の在り方に関する検討会」に関係者ヒヤリングとして参加させていただき、法人の取り組みや今後の改善点について発表させていただく機会をいただく事ができました。

現在、奉優会通所事業部では、23名のアセッサーが誕生し16名が段位取得及び取得に向けて評価をしています。職員の処遇改善・意識向上に繋がると共に、デイサービスにおいて介護を頑張っている職員のプレゼンスを高め、サービスの質をも高められるキャリア段位を促進していきます。

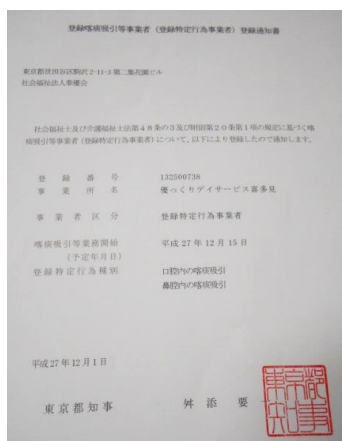
これらの4優デイサービスの促進や職員育成の取り組みをしっかりと行いながら、必要な活動を具現化する1年にしたいと思います。

皆様、今年も宜しくお願いいたします。

通所事業部長 平林 孝浩



優っくりデイ喜多見喀痰吸引等事業者登録



優っくりデイサービス喜多見は医療ケアが必要な利用者様を積極的に受け入れています。現在胃瘻5名、吸引3名、インスリン1名（重複あり）の方が通所されています。昨年から介護職員の吸引研修に取り組んでおり、1名の介護職員が無事に実地研修も終了し、東京都の事業所登録も済みました。



1月からはさらにもう1名が研修に参加する予定となっております。病院からの早期退院は余技なく、看護師が不足の世の中で介護職員もこれからは医療ケアの一部も補わなければならない時代に進んでいます。介護職員がさらに活躍する時代を楽しみにしています。

NS 連絡会



通所事業部のNS連絡会は、各事業所の看護師が集まり、重度 医療受け入れの方向の認識と情報共有と業務標準化・看護師の横とのネットワーク作り（相談や悩みを言える）・医療ケアについての情報交換（ケア方法や研修報告、他職種連携など）を目的として開催されています。

2014年1月31日の看護師連絡会の時に業者（ボストン・サイエンティフィックジャパン）さんによる胃瘻の勉強会を実施し、他にもインスリン、ストーマの業者を呼んで開催しており、今年度は医師を呼んで感染症の勉強会やSTさんを呼んで嚥下勉強会を行いました。

また、平成28年1月13日には、講師を招き、高齢者に多い足のトラブルを中心に解説した後に、現場で直ぐに使える知識から必要な対処方法を講義頂きました。糖尿病やフットケアについても法人内での知識の共有に繋がるような有意義な勉強会でした。

相撲餅つき大会

毎年恒例の餅つき大会を、デイホーム宮前ふれあいの家の玄関前にて12月10日に行ないました。今年も「芝田山」部屋から、3名の力士の方が来てくださり、ご利用様をはじめ、地域の方々や他事業所から仲町高齢在宅サービスセンター、デイホーム高円寺北ふれあいの家のご利用者様も参加されています。午後は力士の方がそれぞれのフロアーに来て下さり、一人一人と写真撮影を行ないました。ご利用様からは、「大変でしょう」「ご飯は一日どのくらい食べるの？」など、色々な質問が出ました。おやつには皆さまがついたお餅が入った「おしろこ」をご用意させていただきました。「美味しい、最高」と皆様笑顔で召し上がってくださいました。また、地域の方々にはお土産として、きな粉餅やあんこ餅をお配りしています。





事例研究



平成 27 年 12 月 6 日（日曜日）9：00 より渋谷区ケアコミュニティ・せせらぎ高齢者在宅サービスセンターにて「通所予選会事例研究発表会」が開催され、今回は全部で 25 事例の発表となりました。どの事業所も工夫を凝らし、社会情勢を踏まえ、現場での新しい取り組みなどが発表されました。さて、接戦の末、今年の事例研究発表会を制したのは？結果について、以下をご覧くださいませ。

第 1 位「フォーユーデイサービス淡路」

【ご利用者の在宅生活を支える～法改正によって変化した機能訓練を交えて～】



第 2 位「優っくりデイサービス喜多見」

【事例困難利用者受け入れに立ち向かえ】



第 3 位は同点で「渋谷区ケアコミュニティ・せせらぎ高齢者在宅サービスセンター」の【訪問調査を実施してからのデイサービスでの運動が在宅生活でどのような効果をもたらしているか】と「奉優デイサービス野沢」の【misson impossible～ビジョン実現に向けたデイホーム野沢の挑戦～】の 2 事業所が受賞いたしました。



また、初の試みとして広報委員会主催のホームページ表彰式も行いました。通所事業部において、最多更新数ならびに最多アクセス数の表彰を部長より行い、最優秀賞の更新数部門は優っくりデイサービス喜多見、アクセス数部門はデイホーム等々力の家が受賞しました。



トライアル雇用～インタビュー～

- ①なぜ、異業種から？
- ②この1年（これまで）を振り返って
- ③今後の目標

ひがし健康プラザ高齢者在宅サービスセンター

山本潤職員

- ①趣味の絵画を通じて高齢者の方との交流がありその経験を活かせると思い入ろうと思いました。また働きながら資格が取得できる事も動機の一つです。
- ②とにかく無我夢中でした。失敗や落ち込む事も多かったですが、利用者様の笑顔が本当に励まされました。
- ③介護技術や知識の更なるレベルアップを目指します。

ひがし健康プラザ高齢者在宅サービスセンター

浅井まゆ美職員

- ①両親も高齢になり将来の為に役立つのではという気持ちがありました。しかしチャレンジしてみたいけど迷いがありなかなか踏み出すことができませんでしたが、トライアル雇用を知り、チャレンジする気持ちになりました。
- ②感謝です。職員の方々・利用者様の暖かいお声掛けに本当に感謝です。
- ③しっかりとまずは考え行動できる力を着実につけていきたいです。

デイホーム高円寺北ふれあいの家

【職員A】

- ①今後、家族や自分自身の問題となってくるため知識や経験を得たいと思いました。
- ②職場の仲間に支えられ、また利用者の言葉や笑顔に励まされ続けられました。
- ③無理せず楽しみながら長く経験を積んでいきたいと思えます。

デイホーム高円寺北ふれあいの家

【職員B】

- ①誰かの役に立ちたいと思いました。
- ②大変な事も多いがそれを忘れさせてくれる位、利用者との時間が楽しいです。
- ③初心を忘れず頑張ります。

仲町高齢者在宅サービスセンター

小島茉莉香職員

- ①働きながら資格が取りたかったことと、仕事だけではなく、今後自分の家族の為に役立つと思ったからです。
- ②未経験で今までと全く違う職種だった為、不安もありましたが、周りの方のサポートがあった事で資格取得までたどり着けました。
- ③同じトライアル雇用の方をサポートしながら資格を活かして働いていきたいです。

フォーユーデイサービス淡路

蜂谷職員

- ①以前から祖父母にはよくしてもらい、祖父母がなくなっている今、高齢者世代に当時の気持ちを恩返ししたいと思っています。
- ②違う業種からなので、一から出直した気持ちで取り組んでいます。
- ③介護福祉士の取得を目指していきたいと思っています。

奉優デイサービス弥生

【西村美職員】

- ①60代も応募できる。勤務日数、時間が希望にかなっており、介護の資格を得ればこの先もある程度、働く事ができるのではと考えた。人に役立つ仕事をしたいと思っていた。母親が高齢なので、そのためにも、自分自身のこれからの生き方にも役立つと思いました。
- ②初めは利用者の名前、顔を覚えること、話しをして人柄を知る事、この2つは1ヶ月である程度できました。仕事の内容、その順番を覚える事が大変でした。
- ③これからは個別ファイルを見て、1人1人の状態を知る段階にしていきたいと思えます。体調管理をして、元気に働き続けたいと願っています。

奉優デイサービス弥生

【職員A】

- ①自分の培ったコミュニケーションをフルに発揮できると思ったからです。
- ②毎日が新しい気付きや驚きの連続でした。先輩職員の皆さんや御利用者様達に育てていただいているなあと日々実感できる3ヶ月でした。1つの壁をクリアしたら次の壁が目の前にあるので一人前になる道のりは気の遠くなる程、遠く険しいものかもしれませんが、御利用者様が喜んで下さったり笑って下さったりそんな時間を共有できる事に私自身、喜びを感じています。
- ③スタッフに信頼され、ご利用者様に安心されるような技術と心がバランスよく備わっている人材になります。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのことと御慶び申し上げます。本年も奉優会をよろしくお願い申し上げます。さて、通所事業部では事業拡大と共に地域交流や人材育成に積極的に取り組んでいます。これまで取り組んできた介護予防プログラムや生活基盤サービスも強化して、法改正をしっかりと視野に入れて参ります。今回の「優とぴあ」では法人あげての「事例研究発表会」の様子や、各事業所での取り組みの紹介などを掲載しております。次回号もお楽しみにお待ちしております。